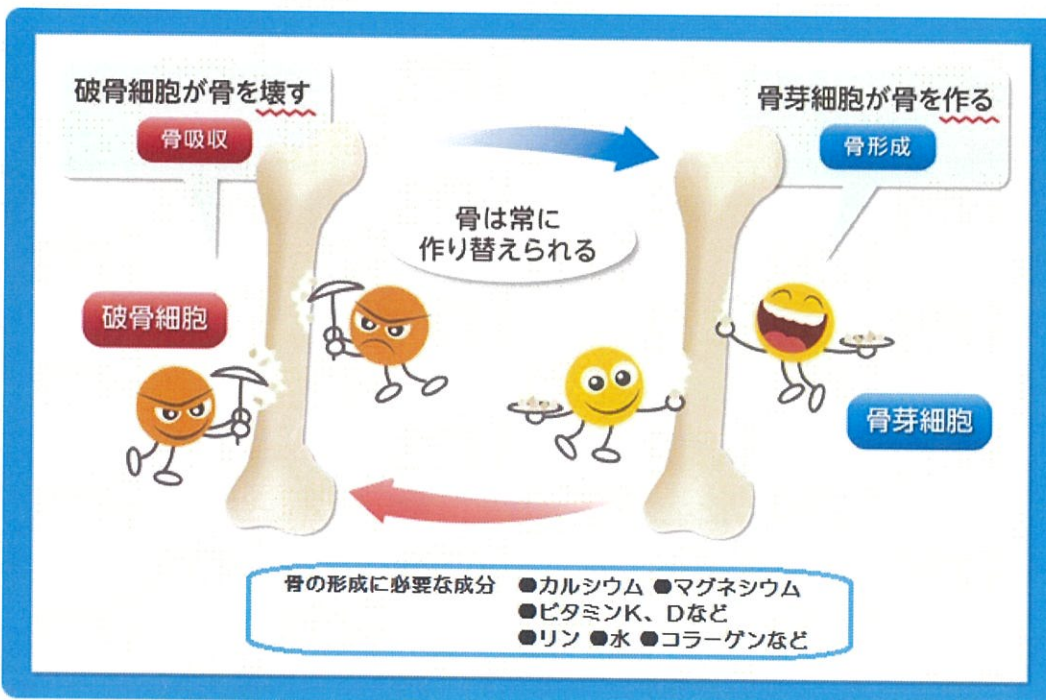


骨粗鬆症の治療は、「骨卒中」を防ぐことから！

高齢者の骨折は若い人たちのものとは全く違い、骨粗鬆症で一度骨折を起こすと、次々に骨折を起こすことがわかってます。

例えば、股関節の骨(大腿骨近位部)を片方骨折すると、もう片方も骨折するリスクが **4 倍**、背骨(椎骨)が1度折れると次の椎骨が折れるリスクは **7 倍**にもなるという統計があります。

この点からも、高齢者の骨折は、骨に起こる重篤な障害として、骨粗鬆症治療の重要性と理解を広めるためにも「**骨卒中**」という表現を萩野浩医師(鳥取大学医学部教授)がされました。



骨の新陳代謝は、左の図のように古い骨を作り変えて新しくするという形で行われています。

健全な時はこのバランスが取れていますが、加齢や運動不足などにより骨を壊すスピードに骨を作るスピードが追いつかず骨粗鬆症の状態になります。

特に女性は生涯において減少する骨量の約半分は、**閉経後の10年の間に減少する**ことがわかっています。

骨粗鬆症の治療は、**骨が折れてからするのではなく、骨卒中を予防することが一番大事**です。一度骨折すると、何度も繰り返したり、重い障害が残ることもあります。楽しい人生、いい人生を送るためには骨が折れないこと、動ける幸せがとても大切です。

若い時は骨を丈夫にすることを、そして年齢を重ねてきたら今の骨量を減らさない努力をぜひ続けていただきたいと思います。

高齢になっても、一人で歩いて笑って暮らせる、自立した人生を目指しましょう。

(武田薬報 Web より抜粋)